

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 1 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890500436
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 瀬戸あいじゅ 汐風
記入者(管理者) 氏名	那須 百合
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 10 日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、ご利用者様に満足していただけることを第一に高品質のサービスを提供し地域社会にもっとも信頼され、安心される施設作りを目指します</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>地域とのかかわりを増やすために町内会への入会。近隣企業へ出向き施設の啓発活動を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は、高齢者総合福祉施設の1階部分にあり、同じ建物に特別養護老人ホームとケアハウス、デイサービスを併設されている。自然豊かな環境の中で、周囲の海や山の景色が良い立地となっており、小学校の跡地にもあることから、二宮金次郎像や校歌の歌碑を残し、地域住民にとっても懐かしい場所となっている。現在はステイホームの傾向が見られるが、コロナ禍の前は地域行事を通じて交流を図っていた。事業所の共用空間は広くゆったりとしており、ソーシャルディスタンスにも適した建物の造りとなっている。職員は利用者を敬い、さりげない声かけやプライバシーを尊重した関わり方に努めている。また、現在は終末期ケアに積極的に取り組めてはいないが、過去に事業所で行った看取り支援の経験を活かし、今後も職員は利用者の希望が叶えられるよう、家族や医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく方向である。利用者の日々の楽しみである食事には、旬の食材や郷土料理を取り入れ、季節行事にも合わせた献立を提供している。利用者の嗜好を尊重し、調理方法にも工夫が見られる。職員の話をしっかり聞いてくれる管理者を中心として、職員は利用者丁寧に接し、利用者が安心できるサービスを日々積み重ねている。</p>
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	アセスメントや面談記録を元に日々の生活の中で希望や意向を聞いている	○	/	○	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を日々の生活の中で確認しており、家族からも面会時などの機会を捉えて意向を把握するように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族に入所以前のことを聞いたり、日々の様子や表情、行動を見て記録している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時や面会時などに家族に確認している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	面談記録やアセスメント、日々の記録を残している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員間で気づきを話あひながら、本人の思いに添えるようにしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時家族や関わってきたケアマネなどから情報を収集している	/	/	○	入居後に、利用者の大切にしているこだわりなどに職員が気づくことや、家族・親戚の面会時にこれまでの暮らし方などを聞き取ることがある。また、以前の担当ケアマネジャーなどからも情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	出来ないことと決めつけず職員と一緒にいき、状態の把握に努めている。アセスメントを行い、定期的に見直ししている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で行動や言動に気をつけて記録を残している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の状態を観察し気になる行動・言動を記録に残し、原因を追究し要因の除去をしている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送りや口頭での引き継ぎ、日々の記録に残し把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人や家族から聞いたり、日々の会話や記録を元に検討し把握している	/	/	○	重度の認知症状が見られる場合や言葉で十分に伝えられない利用者には、職員が本人の思いを想像しながら、利用者の視点でアセスメントをしている。利用者ごとの基本情報やアセスメント表は、介護保険の認定期間に応じて作成されている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人にとって日々の暮らしが充実したものになるよう担当者会議等で話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の課題を検討した上で明らかにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人の思いや意向を反映しアセスメントを行い介護計画を立案している。意向を伝えられない方は、職員本位になっていることもある	/	/	/	現在、利用者の状態は全体的に落ち着いている。日頃から職員がよく利用者の様子を観察しており、状態変化が見られた場合などは、利用者や家族の意向を確認した上で職員間で話し合い、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の状態や本人・家族の意向を職員の意見を反映し介護計画を作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	自分の意向が伝えられない方には、なるべく本人の過ごし方を変更しないようにしている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族のことは盛り込まれているが、地域の協力については盛り込まれていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	いつでもみれるようにファイリングし共有している	/	/	◎	利用者の日々の生活の様子は、日常生活記録表に記載されている。記録表では、介護計画の内容を併せて確認できるようになっており、計画の実施状況についても記録されている。また、記録した職員の名前が書かれ、責任を持って記録が残されている。日頃と異なる利用者の言動が見られた場合などは、誰が読んでも分かりやすいように詳しく記録されている。利用者が眠れない、食べられないなどの状態変化が見られた場合には、職員間で話し合いアイデアを出し合って対応している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画を実践し日々の記録に残している	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の様子や会話など記録に残している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員間で話をし、個々の記録に残している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	個々の期間に応じて見直しを行っている	/	/	○	全ての利用者の介護計画は、3か月に1回見直しをしている。月1回モニタリングを行い、アセスメント情報も見直している。モニタリングの内容は、近況報告として毎月家族に送付している。利用者の状態変化などが見られた場合には、適切に対応し、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	新たな要望や変化がなくてもモニタリングし現状確認している	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があった時はその都度見直ししている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度職員で話し合い行っている	/	/	○	緊急性の高い場合などは、当日の勤務職員による立ち話などで解決をしている。また、会議録を職員間で回覧し、押印にて正確に伝える仕組みを作っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議に全員参加は難しいが、相互の意見交換がしやすい雰囲気作りをしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	全員が一度に参加するのは難しい。参加できない方には会議録を回覧している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	会議録を活用、わからない所は聞いてもらうようにしている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	連絡ノートや会議録を活用している	/	/	○	利用者に関する内容をはじめ、「台風に備えて」「停電の場合」など、事業所全体の連絡事項などは連絡ノートを活用して、職員間の確実な情報伝達に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌や連絡ノートを活用している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	「その日したいこと」の把握は余り出来ていないが、出来ることについては行うようになっている	/	/	/	利用者が自己決定できる。洋服や入浴時間、おやつ選択などの生活場面を職員が細かく見つけ、利用者の意思を尊重している。畑での花の栽培作業やバレーボール、そろばん、ピアノの演奏、読書、さがきごぼうやもやしの根取りなどの調理の下準備など、職員は利用者にとって昔取った杵柄となる事柄を引き出すことができるよう努力している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できるような声かけや工夫をし着替えなど選んでもらっている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定できるようにわかりやすく説明している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	職員の都合を優先していることもあるが、その人のペースで行うようになっている	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	興味のあることを引き出しながら声かけをしている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	意思疎通が困難なひとは、その時の顔の表情を見るよう心がけている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	介助時には常に声をかけ同意を得てから介助にはいつている	/	○	○	年1回、複合施設全体で「人権」や「尊厳」に関する職員研修を開催している。職員は、利用者一人ひとりを敬いながら丁寧な対応に努め、会話の際は利用者の目線に合わせて話すことを基本としている。利用者との関係性などを考慮し、親しみを込めて職員は下の名前前で呼ぶこともある。耳の遠い利用者には、少し大きめの声での対応となっている場合もある。利用者が居室にいる場合は、ノックと声かけをして入り、出る時も声かけをしている。利用者がいない場合にも、事前に理由を伝えて利用者から了解を取って入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	気をつけて声かけている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮しながら行っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際はノック、声かけをし同意を得てから入るようになっている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に誓約書を交わしている。また勉強会も行っている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員は、知らないことを教えて頂いたり、常に感謝する言葉を出し伝えている	/	/	/	利用者の座席の配置には、職員は十分な配慮をしている。利用者同士の空気が重たくなりそうな場面では、職員が間に入って声かけをしたり、上手く話題を変えたりして、和やかな雰囲気を取り戻している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で作業する時間を大切にしている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	食事の場所など、仲の良い人や同郷の方を近くにしたり、職員が常に近くにいることで孤立感を味わうことのないようになっている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が常に近くにいることでトラブルが起きそうになった時は間にはいり対応している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	入所前の面談や面会者、本人との会話の中で確認しているが、十分に把握しきれていない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入所前の面談や面会者、本人との会話の中で確認しているが、十分に把握しきれていない	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族の協力で出かける方はいるが、全員は行えていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	感染症対応時以外の面会は、ホールや居室など本人、家族が落ち着ける場所で時間制限なくゆっくり行える	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出はあまり行えていないが、中庭を活用し外に出る機会を作っている	△	×	△	現在、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、家族との面会は窓ガラス越しになっている。家族による通院介助を除き利用者の外出を控えているが、中庭には自由に出ることができる。共用空間が広くゆったりしており、現在のところ利用者からの不満などは出ていない。寝たきりなどの重度の利用者は、現在はいいない状況である。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出できていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	中庭で花や野菜を見て少しでも外の空気を感じてもらっている	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在行えていないが、今後は協力を得ながら行っていきたい	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部、外部の勉強会に参加し理解を深めている	/	/	/	職員は、利用者が洗濯物を畳んだり、入浴後の着替えにゆっくりと時間をかけたり、読書や家族への手紙を書くことができるようにするなど、利用者に合わせて環境を整え、場面づくりに導いている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	変化に早く気づき職員で相談し対応している。今、出来ることを維持できるようにしていく	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることは、時間をかけてでもゆっくりして頂き見守りしている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	役割をもって毎日習慣づいている方もいる	/	/	/	できる時にできることが楽しめるように、職員はこれまでの生活の中で続けてきた出番や役割を引き出しながら、利用者の意欲を向上させている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	女性だけでなく、仕事も取り合いになることもあるが、その方に応じて出来ることを行っていたい	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での活動は出来ていない。今後行っていきたい	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎日、化粧をしピアスをされたり髪型を整えている。更衣時には、服を選ばれる方は選んでもらっている				ひげ剃りはできるところまでを利用者が行い、職員が仕上げをしている。着衣の乱れや食べこぼし、口元の汚れなどは、職員がさりげなくフォローしている。利用者への化粧やピアスなどのおしゃれの支援も忘れていない。靴等の破損した場合には、家族に買い替えなどをお願いしている。現在は寝たきり状態までの重度の利用者はいないが、職員は全ての利用者に対して整髪や着替えなどを日課として支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	入所前から使用して紙を整えられている方もいる				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節に合わせた服装などを声かけしながら、本人の気持ちに添って支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出、行事時は日頃着ない服と一緒に選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声かけし汚れをとったり更衣している	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の協力で希望の店にいけるようにしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的に訪問理容で支援を行っている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	意味や大切さを理解した上で一緒にやっている				献立は複合施設の栄養士が作成している。食材は施設の厨房から届き、ユニット内で職員が調理している。調理の下ごしらえの手伝いや盛り付け、後片付けなど、できることを利用者は職員と一緒にしている。利用者の嗜好は事前に栄養士に伝えており、代替の食材を提供することや、職員が調理方法などを工夫するよって、利用者が嫌いな物でも食べることができている。現在は、アレルギーを保有する利用者はいない。訪問調査日は中秋の名月の日にあたり、おやつには白玉団子入りぜんざいが振る舞われた。夏には、かき氷やスイカ、秋には焼き芋と塩サバ、沢庵をメニューに入れ、利用者に喜ばれる。郷土料理の伊予さつま、ところてん、さんきら餅、かんころ餅なども取り入れている。茶碗や湯のみ、箸は、自宅で使い慣れた物を使用しており、破損時には家族や事業所に揃えている。コロナ禍の前は、職員は持参した弁当を利用者と一緒に食べていたが、現在は利用者の介助が終わってから別に食事を摂っている。また、現在は寝たきり状態までの利用者はいないため、全ての利用者が共用空間を中心に過ごしており、調理の音や匂いを感じながら、食事を楽しみに待っている。残食があれば職員は栄養士に報告して、利用者の嗜好を伝え、歯に詰まりやすい食材や調理方法などについても相談している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立や買い物は施設内の厨房が行っている。調理の下準備や後片付けは可能な限り出来る方とともにやっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来ることを一緒に行うことにより自信や達成感、食欲アップにつなげられるように支援している				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	個々の苦手なもの、アレルギーのものを把握し代替品で対応している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	献立は施設内の栄養士が作成。郷土料理や行事に合わせたメニューを作成している			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	個々の状態にあわせて、食べやすい大きさ、量など工夫している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所時にご自分のものをもってきていただき使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	現在は感染症予防のため一緒に食事は行っていないが、それ以外のときは一緒に食事をを行いサポートしている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	メニューを掲示している。ユニット内で調理することで音や匂いを感じてもらえるようにしている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事、水分摂取量をチェックし把握している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量の少ない人は、声かけをや水分補給の回数を増やしたり、飲み物も種類をかえて対応している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は施設栄養士が作成。調理方法などわからない時は都度確認している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は冷蔵庫で管理。調理用具は使用都度消毒している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解し対応している				職員は毎食後の歯磨きで、利用者一人ひとりの口の中の健康状態を観察し、把握している。管理者等は、今後は舌の状態についても確認をしていきたいと考えている。利用者にはできることはしてもらい、仕上げ磨きは職員が毎回確認して行っている。入れ歯は、夜間は職員が保存液で保管し、清潔を保っている。訪問調査日には、職員が昼食後に歯ブラシとコップを準備して声かけを行い、口腔衛生に配慮をしている様子を見ることができた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。本人から訴えがあったときには歯科医へ相談し治療している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	勉強会を行い日々の支援に活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自身で洗える方は洗っていただき洗浄液につけている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	自身で歯磨きを行い確認できる方は確認している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科医に診ていただいている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄を促している。尿意を訴えられない方も時間を見ながらトイレ誘導し排泄を促している				職員は利用者の紙パンツ使用の必要性を見極め、常に状態に応じた適切な見直しをしている。利用者が使用する紙パンツ類は個人購入で費用が発生することもあり、事前に家族にも相談し理解を得ている。利用者の状態や家族の意向を確認した上で、紙パンツから布パンツへ変更することもあり、尿意がしっかりとすることやトイレへの移動の機会が増えて、リハビリにもつながっている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し食事・水分・運動に気をつけている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表に記載している。排便の兆候をつかめる方はつかんでいる				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	体調の悪い時以外は、基本トイレでの排泄を促している。おむつ使用について、常に職員間で話し合っている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	訴えがなくても時間を見ながら誘導している。病的なこともあるので、尿量や尿色の異常などあれば受診している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンや兆候にあわせて早めに声かけや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人、家族、職員で相談し使用したほうがいい時には使用している。本人の尿量や間隔などで決めているが、選択肢があまりない				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の状態に合わせて昼夜の使い分けを行っている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	水分を多めに摂取や腹部のマッサージをしているが、便秘薬を併用している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	曜日や時間帯は希望に添えていない。温度や入浴時間は個々に合わせている	◎		○	入浴の時間や回数、温度を利用者一人ひとりに合わせて職員は対応しており、利用者に喜ばれている。入浴の時間帯については、日中であれば利用者が選ぶことが可能である。浴室は各ユニットに備えられており、機械浴が必要になれば、併設のデイサービスの設備を利用することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	個浴のため一人ひとりがゆっくり入浴できるように支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	できる所は自分で洗って頂いている。できない所は支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒む方には無理には行わず、日や時間を変え本人が納得の上で入浴している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、血圧・検温測定などのバイタルチェックを行い健康状態のよい時に入浴している。入浴後にも体調の確認をしている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者が、個々の睡眠状態を記録している	/	/	/	現在、安定剤を服用している利用者があり、今後も継続して職員は医師や家族に相談しながら、日中の過ごし方の工夫にも取り組んでいく予定である。寒い時期には、ペットボトルの湯たんぽを活用するなど、利用者は暖かくして眠ることができる。また、眠れない時には、読書をして過ごす利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、落ち着ける環境づくりに心がけている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中、夜間の状態を記録し、主治医に伝えている	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室で過ごしたい方は、居室で過ごしていただいている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があるときには、手紙を書いたり電話をしている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人が「書けない。書いて」と言われるときは職員が代筆行つた	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡し必要であれば家族にも連絡している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	お願いはしていないが、本人が話したい時には電話をしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	近隣で店がなく買い物に行く機会がない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近隣で店がなく買い物に行く機会がない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	希望があれば話し合いを行う	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	欲しい時、必要なものがあれば家族へ相談している	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理は家族が行っている。何か購入するものがある場合は家族の同意を得て購入している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の入院により面会に行くなど柔軟な対応をしている。	○	/	○	事業所として、可能な限り利用者や家族の意向を受け入れ、柔軟なサービスの提供と支援に取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関周りは季節の花が咲き、気軽に出入りしやすいようになっている	◎	◎	○	元川之浜小学校の跡地に複合施設は建っており、二宮金次郎像や校歌の歌碑、桜の木が植えられてあり、懐かしく感じる地域住民も多い。事業所の玄関は施設と共有しており、入口付近には季節の花のプランターが並べられている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節感を味わえるような飾り付けを行っている	○	○	○	ユニット内の共用空間は広く、コロナ禍のソーシャルディスタンスにも適している。中庭があるため、外光や外気に利用者は触れやすく、建物内は明るく風通しも良い。ユニットの至るところにソファが置かれてあり、利用者はゆっくり思い思いの場所で休むことができる。職員が隅々まで丁寧に掃除をし、できる利用者と一緒にいる。空気清浄機も各ユニットに設置されている。中庭には、トマトやキュウリの野菜、季節の花を栽培するスペースもあり、利用者は季節を感じることができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除や換気を行っている					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感にあわせた行事に参加している。また、中庭には季節の花や野菜を植えている					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方同士で自由に過ごされている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	直接見えないような作りになっている。また、中庭や2階からも見えないように目隠しをしている					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	テレビやソファなど居室に置くくつろげる部屋にしている方もいる	○			居室にはテレビやソファ、位牌、孫の作品(本人の似顔絵)、家族写真、スクラッチアートなどがあり、利用者一人ひとりにとって居心地のよい空間が作られている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	今、出来ることを活かしながら自立した生活が送れるようにしている			○	トイレの貼紙や居室入口にはプレートの表札を設置しており、職員は丁寧な誘導や声かけにも努め、利用者が安心して生活できるよう取り組んでいる。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱を招くものは置かないようにしている					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	使用する際に渡している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	所在確認を行い、自由に歩けるようにしている	◎	◎	○	事業所の海側の出入口のみ、利用者の安全第一のため施設しているが、複合施設と連結する出入口などは開錠し、ルートを確認している。利用者が外に出たい場合には、職員が付き添って一緒に中庭へ出て、明るい話をして気持ちを安らげるなど、利用者の気持ちを汲み入れながら生活を支援している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	その都度話し合っている					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	施設内の他部署にも協力していただいているが、近隣への理解・周知は行っていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントや面談記録に個々の病歴などは明記している。いつでも閲覧できるようにファイリングしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日、バイタル測定を記録し、異常の早期発見につとめている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	日中夜間を問わずいつでも協力医療機関に連絡が取れる体制を作っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入所前からのかかりつけ医に受診されている方もいる	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	訪問診療を定期的に行っている。常に連携を図っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	その都度、連絡・相談・報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	本人の状態を明記したサマリーを渡し情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	定期的に面会に行き病状の把握を行い病院関係者との連携を図っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	訪問診療時や定期的に相談を行い日頃から連携を図っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護師の配置はないが、協力医療機関に何かあれば伝え相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関に24時間連絡が取れる体制を作っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	いつもと様子が違うなどの変化があれば協力医療機関に相談し受診している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個々の薬剤情報をファイリングし理解に努めている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬の管理は職員が行っている。医師の指示通り服薬介助を行い、誤薬のないよう工夫している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態を観察して記録している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化があったときは状態の経過や変化を細かく記録し医師に報告、連絡、相談している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	入所時や重度化した場合、家族と相談している	/	/	/	終末期ケアに関する指針やマニュアルは作成されていないが、入居時にのみ職員は事業所の方針などを家族に説明している。過去に一度、事業所で看取りを行った際には、かかりつけ医と連携し、複合施設の看護師の協力を得ながら支援し、職員は、「利用者や家族の意向に沿うことができよかった」と感じている。また、管理者は、「今後も看取り支援の希望があれば、実施していきたい」という、考えを持っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合、家族と相談し協力医療機関とも相談している	x	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	どこまでの支援ができるか話し合っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に説明している。重度化しているときにもその都度施設で出来ること・出来ないことを説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度化した場合、医師の意見も踏まえた上で家族と相談している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の気持ちをその都度聞いている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	マニュアルを作成。マニュアルや感染症について勉強会を行っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルに沿って対応。勉強会を実施。また、感染症対応のキットに手順を記入している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	その都度最新の情報を取っている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	随時情報収集対策をとっている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤時に手洗い、嗽を行っている。来訪者にも、手指消毒をしてもらっている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入所者の状況報告だけでなく、日常会話を含めて伝えている	/	/	/	事業所の行事内容は、全ての家族に連絡しているが、今年度はコロナ禍のため、家族参加の夏祭りやそうめん流しなどの行事の規模を縮小して実施している。県外に住む家族もあり、毎月、請求書に合わせて一緒にモニタリングした状況を送付し、利用者の様子を伝えている。電話連絡や写真も送るなどして、伝達することもある。職員の異動等の状況については、入れ替わりが少ないこともあり、これまで特に利用者や家族への影響は見られていないが、今後は伝えていく予定である。現在、コロナ禍のため、職員は家族とのコミュニケーションの機会が減っているが、家族が事業所に意見をより伝えやすくなるような取組みの工夫を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	感染症対応以外のときは、居室で面会時はお茶を出したりしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の案内を行い参加していただけるようにしている	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月の暮らしぶりや日常の様子などを記入し近況報告として送付している	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	×	本人の状況は報告しているが、家族の知りたいことは把握できていない	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	面会時は声をかけ、状況や状態を伝えている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の報告は行っているが、職員の異動までは報告できていない	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会を行っているが、参加者が少ない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時に説明している。また、落ち着かないときや退院後などもリスクを伝えている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	面会時には日々の様子を報告している	/	/	△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に契約書・重要事項説明書を説明し同意を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	状態が変化した時には家族、主治医と相談し退居先に移れるように支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時などの変更時は文章を送付し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議や行事で施設への理解を図っている	/	◎	/	現在は、コロナ禍により屋外の散歩や地域との交流機会が減少している。町内会への加入をしたため、管理者は今後回覧板などを活用し、地域に対して事業所行事の案内や報告、周知活動をしていく方針である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	外に散歩へ行った際、挨拶は行っている	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	ほとんどない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	行事には来てくださっている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	隣近所がなく、日常的な付き合いはない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夏祭りや敬老会など参加し支援して頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	夏祭りではGHの入所者が出し物を出している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣の高齢者福祉施設と災害時相互応援協定を締結している。消火、避難訓練等を通じて消防署との関係を深めている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族や民生委員、町の職員に参加して頂いている	×	/	△	現在は案内は行っていないが、今後は全ての家族に運営推進会議の開催案内を行う予定である。会議では利用者の様子や行事などの報告事項は、十分に行っている。これまで運営推進会議を重ねてきたことで、町内の他の2か所のグループホームとの横のつながりもでき、開催した成果が見られている。また、会議には地域住民の参加もあり、会議の目的や意義についても理解を得ており、参加者からの意見や提案を受けて利用者のプラスになるよう取り組むことができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で意見を職員で話し合っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマにあわせて日程、時間調整をしている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	施設玄関に置き、自由に閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	法人の理念に沿って支援している	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に掲示している	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修に参加している	/	/	/	法人全体で、年1回職員のストレスチェックを実施している。複合施設全体を管理する施設長は事業所にも顔を出しており、職員にとって話しやすく、現場の声にも耳を傾けてくれる。また、施設長は事業所の運営推進会議にも出席しており、行事にも協力してくれている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体での勉強会計画に沿って勉強会を行いスキルアップできるように努めている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の努力や実績等を把握している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内事業所の運営推進会議に参加し情報交換やネットワーク作りを努めている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックを年に1回実施している。職員同士相談しやすい環境作りを努めている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	マニュアルを作成している。マニュアルにそって勉強会を行っている。	/	/	/	年2回、職員研修を実施している。不適切なケアについては、3か月に1回、チェック表をもとに全ての職員が自己点検を行い、管理者が確認している。また、ユニット内には事業所の高齢者虐待防止指針を掲示している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	不適切ケアチェックを3か月毎に実施し自身のケアを振り返っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	見過ごすことのないよう努めている。また、発見した場合の対応方法などはマニュアルに記載している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労がでないように勤務を組んだり、ストレスによりケアに影響が出ていないか注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	マニュアルを作成している。マニュアルを元に勉強している。常に職員間で話し合い、行動を制限しないケアが実施できるよう工夫している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	常に職員間で話し合いを行い勉強会を行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在そのような事例はない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	勉強会はしたが、それぞれの違いや利点まで全員は理解できてない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在そのような相談はないが、相談があれば支援していく				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連絡体制はあれが、現在必要な方はいない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	実践的な研修は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットの報告書を行い事故につながることに検討している。事故発生時は分析や再発防止策を検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生後、対応策を検討・実施し見直しを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	施設内のマニュアルを作成している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は手順にそって対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	寄せられた苦情には速やかに対応し納得が得られるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設けている。			○	利用者一人ひとりの生活場面から、職員は利用者本人の要望などを汲み取っている。苦情相談窓口をユニット内に掲示しているが、直接相談に来る利用者はいない。家族会はあるが参加者が限られており、家族の面会や電話連絡時に意見、要望などを把握している。運営推進会議の参加者からも意見を聞くことができる。職員は、管理者と話しやすいと感じており、利用者の支援に関する内容などを含めて、個別に相談できる機会がある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時など個別に話を聞いている。意見箱を設置しているが意見はほとんどない。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	苦情相談窓口を設け施設内に掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	個別に話を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個別に悩みや相談を受けるようにしている。			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に一度自己評価を行っている。				運営推進会議において、外部評価の結果や今後の取組みなどについて報告をしている。今後は、事業所のモニターの仕組みがさらに機能していく取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員同士で話し合いを行っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標が達成できるよう取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて評価結果や今後の取り組みについて報告している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	行っていないため今後は行いたい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害ごとのマニュアルを作成している。				複合施設全体で、日中と夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。現在は、地区の合同訓練への参加ができておらず、事業所内の訓練に家族や地域住民の参加も得られていない状況である。今後は、家族や地域住民に事業所の取組みを伝え、複合施設に併設した原子力災害等の避難施設である屋内退避棟の案内などを行う計画としている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練計画にそって訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	地区の合同訓練に参加していたが、施設内の屋内退避棟に避難するようになっている。	△	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	消防署立会いのもと、訓練や指導、助言をいただいている。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない。初任者研修の講師依頼があったが、初任者研修が未開催になった。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていないため今後は行いたい。		×	×	地域住民などに対する相談支援を行うことができていないため、今後は回覧板を活用するなど、事業所の取組みを地域に周知していくことを期待したい。近所にあった保育所は閉園したが、町内の中学生や高校生によるボランティア活動を受け入れている。また、複合施設・事業所として、日頃から町担当課や地域包括支援センターの担当者と勉強会などを通じてコミュニケーションが図られ、相談できる関係を築いている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	集う場所を提供しますと声をかけたが、地域と離れていることもあり活用はされていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験の受け入れをおこなった。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センター主催の勉強会などに参加している。連携は図れている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 1 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890500436
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 瀬戸あいじゅ 浜風
記入者(管理者) 氏名	堀田 亜紀
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 11 日

<p>【事業所理念】 私たちは、ご利用者様に満足していただけることを第一に高品質なサービスを提供し地域社会にもっとも信頼され、安心される施設づくりを目指します</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 地域とのかかわりを増やすために町内会への入会。近隣企業へ外向き施設の啓発活動を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、高齢者総合福祉施設の1階部分にあり、同じ建物に特別養護老人ホームとケアハウス、デイサービスを併設されている。自然豊かな環境の中で、周囲の海や山の景色が良い立地となっており、小学校の跡地にもあることから、二宮金次郎像や校歌の歌碑を残し、地域住民にとっても懐かしい場所となっている。現在はステイホームの傾向が見られるが、コロナ禍の前は地域行事を通じて交流を図っていた。事業所の共用空間は広くゆったりとしており、ソーシャルディスタンスにも適した建物の造りとなっている。職員は利用者を敬い、さりげない声かけやプライバシーを尊重した関わり方に努めている。また、現在は終末期ケアに積極的に取り組めてはいないが、過去に事業所で行った看取り支援の経験を活かし、今後も職員は利用者の希望が叶えられるよう、家族や医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく方向である。利用者の日々の楽しみである食事には、旬の食材や郷土料理を取り入れ、季節行事にも合わせた献立を提供している。利用者の嗜好を尊重し、調理方法にも工夫が見られる。職員の話をしっかり聞いてくれる管理者を中心として、職員は利用者丁寧に接し、利用者が安心できるサービスを日々積み重ねている。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の様子を家族、本人より聞き希望、意向の把握に努めている。	○	/	○	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を日々の生活の中で確認しており、家族からも面会時などの機会を捉えて意向を把握するように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日常生活の様子をみて検討する。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時や面会時などに家族に確認している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	面談記録やアセスメント、日々の記録を残している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員間で気づきを話あいながら、本人の思いに添えるようにしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の面談記録、生活層をみて把握して努めている。	/	/	○	入居後に、利用者の大切にしているこだわりなどに職員が気づくことや、家族・親戚の面会時にこれまでの暮らし方などを聞き取ることがある。また、以前の担当ケアマネジャーなどからも情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人の現状を把握し努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の記録し、職員同士で情報を共有し把握できている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	気になる言動は記録し、背景要因の把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送りや口頭での引き継ぎ、日々の記録に残し把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話、行動を記録し本人の視点で検討している。	/	/	○	重度の認知症状が見られる場合や言葉で十分に伝えられない利用者には、職員が本人の思いを想像しながら、利用者の視点でアセスメントをしている。利用者ごとの基本情報やアセスメント表は、介護保険の認定期間に応じて作成されている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人にとって何が良いかを検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人・家族意向を聞き課題を検討した上で明らかにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人の思いや意向を反映しアセスメントを行い介護計画を立案している。意向を伝えられない方は、職員本位になっていることもある	/	/	/	現在、利用者の状態は全体的に落ち着いている。日頃から職員がよく利用者の様子を観察しており、状態変化が見られた場合などは、利用者や家族の意向を確認した上で職員間で話し合い、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の状態や本人・家族の意向を職員の意見を反映し介護計画を作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	自分の意向が伝えられない方には、なるべく本人の過ごし方を変更しないようにしている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族のことは盛り込まれているが、地域の協力については努めているが難しく盛り込まれていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	いつでもみれるようにファイリングし職員間で共有している	/	/	◎	利用者の日々の生活の様子は、日常生活記録表に記載されている。記録表では、介護計画の内容を併せて確認できるようになっており、計画の実施状況についても記録されている。また、記録した職員の名前が書かれ、責任を持って記録が残されている。日頃と異なる利用者の言動が見られた場合などは、誰が読んでも分かりやすいように詳しく記録されている。利用者が眠れない、食べられないなどの状態変化が見られた場合には、職員間で話し合いアイデアを出し合って対応している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画を実践し日々の記録に残している。毎月モニタリングを行っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	毎日の様子を記録に残している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員間で話をし、個々の記録に残している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	個々の期間に応じて見直しを行っている	/	/	○	全ての利用者の介護計画は、3か月に1回見直しをしている。月1回モニタリングを行い、アセスメント情報も見直している。モニタリングの内容は、近況報告として毎月家族に送付している。利用者の状態変化などが見られた場合には、適切に対応し、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い、アセスメントの見直しを行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に応じ、見直しが必要な場合には本人・家族と見直しを行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度職員で話し合い行っている	/	/	○	緊急性の高い場合などは、当日の勤務職員による立ち話などで解決をしている。また、会議録を職員間で回覧し、押印にて正確に伝える仕組みを作っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見の言いやすい雰囲気作りが工夫されている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	全員が一度に参加するのは難しい。参加できない方には会議録を回覧している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	会議録を活用、わからない所は聞いてもらうようにしている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	連絡ノートや会議録を活用している	/	/	○	利用者に関する内容をはじめ、「台風に備えて」「停電の場合」など、事業所全体の連絡事項などは連絡ノートを活用して、職員間の確実な情報伝達に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌や連絡ノートを活用している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	利用者に応じて、出来ることについては行うようにしている。	/	/	/	利用者が自己決定できる、洋服や入浴時間、おやつや選択などの生活場面を職員が細かく見つけ、利用者の意思を尊重している。畑での花の栽培作業やバレーボール、そろばん、ピアノの演奏、読書、さがきごぼうやもやしの根取りなどの調理の下準備など、職員は利用者にとって昔取った杵柄となる事柄を引き出すことができるよう努力している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な方については声かけを行い工夫している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	一人ひとりに合わせた声かけを行いながら支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	業務が優先されていることが多い。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	興味のあることを引き出しながら声かけをしている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	本人の表情を見ながら行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声かけを行い同意を得て介助を行いプライバシーを大切にしよう気をつけている。	/	○	○	年1回、複合施設全体で「人権」や「尊厳」に関する職員研修を開催している。職員は、利用者一人ひとりを敬いながら丁寧な対応に努め、会話の際は利用者の目線に合わせて話すことを基本としている。利用者との関係性などを考慮し、親しみを込めて職員は下の名前前で呼ぶこともある。耳の遠い利用者には、少し大きめの声での対応となっている場合もある。利用者が居室にいる場合は、ノックと声かけをして入り、出る時も声かけをしている。利用者がいない場合にも、事前に理由を伝えて利用者から了解を取って入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	気をつけて声かけている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮しながら行っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際はノック、声かけをし同意を得てから入るようにしている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に誓約書を交わしている。また勉強会も行っている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の出来る手伝いをして頂いたとき等、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	利用者の座席の配置には、職員は十分な配慮をしている。利用者同士の空気が重たくなりそうな場面では、職員が間に入って声かけをしたり、上手く話題を変えたりして、和やかな雰囲気を取り戻している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で出来ること、作業することを大切にしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	仲の良い方を近くに座って頂いたり、トラブルのおきそうな時は、職員が間に入り話を聞くようにしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	一度トラブルのあった方は、席を離すようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	面談、面会、本人との会話の中で把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	面談、面会、本人との会話の中で把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	会いに行くことは出来ない。施設内におられる方には会えている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	感染症対応時以外の面会は、ホールや居室など本人、家族が落ち着ける場所で時間制限なくゆっくり行える	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出はあまり行えていないが、施設周囲や中庭を活用し外に出る機会を作っている	△	×	△	現在、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、家族との面会は窓ガラス越しになっている。家族による通院介助を除き利用者の外出を控えているが、中庭には自由に出ることができる。共用空間が広くゆったりしており、現在のところ利用者からの不満などは出ていない。寝たきりなどの重度の利用者は、現在はいいない状況である。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出できていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	中庭にでたり、外をみて気分転換を図るようにしている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在行えていないが、今後は協力を得ながら行っていきたい	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部、外部の勉強会に参加し理解を深めている	/	/	/	職員は、利用者が洗濯物を畳んだり、入浴後の着替えにゆっくりと時間をかけたり、読書や家族への手紙を書くことができるようにするなど、利用者に合わせて環境を整え、場面づくりに導いている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活の中で出来ることはして頂き、維持できるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることは、時間をかけてでもゆっくりして頂き見守りしている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	役割を持ち、できるお手伝いをしてもらっている。	/	/	/	できる時にできることが楽しめるように、職員はこれまでの生活の中で続けてきた出番や役割を引き出しながら、利用者の意欲を向上させている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	女性だけでなく、仕事も取り合いになることもあるが、その方に応じて出来ることを行っていたい	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での活動は出来ない。今後行っていきたい	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい服装、身だしなみができるよう支援している。				ひげ剃りはできるところまでを利用者が行い、職員が仕上げをしている。着衣の乱れや食べこぼし、口元の汚れなどは、職員がさりげなくフォローしている。利用者への化粧やピアスなどのおしゃれの支援も忘れていない。靴等の破損した場合には、家族に買い替えなどをお願いしている。現在は寝たきり状態までの重度の利用者はいないが、職員は全ての利用者に対して整髪や着替えなどを日課として支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の好みの服装をしてもらっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節に合わせた服装などを声かけしながら、本人の気持ちに添って支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出、行事時は日頃着ない服と一緒に選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声かけし汚れをとったり更衣している	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の協力で希望の店にいけるようにしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的に訪問理容で支援を行っている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解した上で一緒に行っている。				献立は複合施設の栄養士が作成している。食材は施設の厨房から届き、ユニット内で職員が調理している。調理の下ごしらえの手伝いや盛り付け、後片付けなど、できることを利用者は職員と一緒にしている。利用者の嗜好は事前に栄養士に伝えており、代替の食材を提供することや、職員が調理方法などを工夫するよって、利用者が嫌いな物でも食べることができている。現在は、アレルギーを保有する利用者はいない。訪問調査日は中秋の名月の日にあたり、おやつには白玉団子入りぜんざいが振る舞われた。夏には、かき氷やスイカ、秋には焼き芋と塩サバ、沢庵をメニューに入れ、利用者に喜ばれる。郷土料理の伊予さつま、ところてん、さんきら餅、かんころ餅なども取り入れている。茶碗や湯のみ、箸は、自宅で使い慣れた物を使用しており、破損時には家族や事業所に揃えている。コロナ禍の前は、職員は持参した弁当を利用者と一緒に食べていたが、現在は利用者の介助が終わってから別に食事を摂っている。また、現在は寝たきり状態までの利用者はいないため、全ての利用者が共用空間を中心に過ごしており、調理の音や匂いを感じながら、食事を楽しみに待っている。残食があれば職員は栄養士に報告して、利用者の嗜好を伝え、菌に詰まりやすい食材や調理方法などについても相談している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立や買い物は施設内の厨房が行っている。調理の下準備や後片付けは可能な限り出来る方とともにやっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来ることを一緒に行うことにより自信や達成感、食欲アップにつなげられるように支援している				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	個々の苦手なもの、アレルギーのものを把握し代替品で対応している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	献立は施設内の栄養士が作成。郷土料理や行事に合わせたメニューを作成している			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人ひとりの状態を把握し対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所時にご自分のものをもってきていただき使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	現在は感染症予防のため一緒に食事は行っていないが、それ以外のときは一緒に食事をを行いサポートしている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	メニューを掲示している。ユニット内で調理することで音や匂いを感じてもらえるようにしている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事、水分摂取量をチェックし把握している。いつでも飲めるようにし、声かけ対応している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量の少ない人は、声かけや水分補給の回数を増やしたり、飲み物も種類をかえて対応している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は施設栄養士が作成。調理方法などわからない時は都度確認している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は冷蔵庫で管理。調理用具は使用都度消毒している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解し対応している				職員は毎食後の歯磨きで、利用者一人ひとりの口の中の健康状態を観察し、把握している。管理者等は、今後は舌の状態についても確認をしていきたいと考えている。利用者にはできることはしてもらい、仕上げ磨きは職員が毎回確認して行っている。入れ歯は、夜間は職員が保存液で保管し、清潔を保っている。訪問調査日には、職員が昼食後に歯ブラシとコップを準備して声かけを行い、口腔衛生に配慮をしている様子を見ることができた。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。本人から訴えがあったときには歯科医へ相談し治療している			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	勉強会を行い日々の支援に活かしている					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自身で洗える方は洗っていただき洗浄液につけている					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	自身で歯磨きを行い確認できる方は確認している。嫌がられる方もいるので、全員は行えていない。					○
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科医に診ていただいている					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解した上で声かけトイレ誘導行っている。				職員は利用者の紙パンツ使用の必要性を見極め、常に状態に応じた適切な見直しをしている。利用者が使用する紙パンツ類は個人購入で費用が発生することもあり、事前に家族にも相談し理解を得ている。利用者の状態や家族の意向を確認した上で、紙パンツから布パンツへ変更することもあり、尿意がしっかりとすることやトイレへの移動の機会が増えて、リハビリにもつながっている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し食事・水分・運動に気をつけている					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	△	記録、チェックしているが把握できない。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	体調の悪い時以外は、基本トイレでの排泄を心がけている。	◎		○		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	訴えがなくても時間を見ながら誘導している。病的なこともあるので、尿量や尿食の異常などあれば受診している					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンや兆候にあわせて早めに声かけや誘導を行っている					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人、家族、職員で相談し使用したほうが良い時には使用している。本人の尿量や間隔などで決めているが、選択肢があまりない					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の状態に合わせて昼夜の使い分けを行っている					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	水分を多めに摂取や腹部のマッサージをしているが、便秘薬を併用している					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	曜日や時間帯は希望に添えていない。温度や入浴時間は個々に合わせている	◎		○	入浴の時間や回数、温度を利用者一人ひとりに合わせて職員は対応しており、利用者に喜ばれている。入浴の時間帯については、日中であれば利用者が選ぶことが可能である。浴室は各ユニットに備えられており、機械浴が必要になれば、併設のデイサービスの設備を利用することができる。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	個浴のため一人ひとりがゆっくり入浴できるように支援している					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	できる所は自分で洗って頂いている。できない所は支援している					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	理解し本人の意思を尊重し行っている。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、血圧・検温測定などのバイタルチェックを行い健康状態のよい時に入浴している。入浴後にも体調の確認をしている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者が、個々の睡眠状態を記録している	/	/	/	現在、安定剤を服用している利用者があり、今後も継続して職員は医師や家族に相談しながら、日中の過ごし方の工夫にも取り組んでいく予定である。寒い時期には、ペットボトルの湯たんぽを活用するなど、利用者は暖かくして眠ることができる。また、眠れない時には、読書をして過ごす利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、落ち着ける環境づくりに心がけている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中、夜間の状態を記録し、主治医に伝えている	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室で過ごしたい方は、居室で過ごしていただいている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望されるときに、電話をかけたり手紙のやり取りの支援を行っている。携帯電話をもたれている方もいる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望される方には支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人が大切に持っておられる。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に理解、協力していただいている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要なとき、家族に連絡をお願いすることが多い。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近隣で店がなく買い物に行く機会がない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族が希望されお金を所持されている方もおられる。職員に買い物頼むこともある。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	欲しい時、必要なものがあれば家族へ相談している	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理は家族が行っている。何か購入するものがある場合は家族の同意を得て購入している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望に応じたサービス提供に努める。	○	/	○	事業所として、可能な限り利用者や家族の意向を受け入れ、柔軟なサービスの提供と支援に取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関周りは季節の花が咲き、気軽に出入りしやすいようになっている	◎	◎	○	元川之浜小学校の跡地に複合施設は建っており、二宮金次郎像や校歌の歌碑、桜の木が植えられてあり、懐かしく感じる地域住民も多い。事業所の玄関は施設と共有しており、入口付近には季節の花のプランターが並べられている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節感を味わえるような飾り付けを行っている	○	○	○	ユニット内の共用空間は広く、コロナ禍のソーシャルディスタンスにも適している。中庭があるため、外光や外気に利用者は触れやすく、建物内は明るく風通しも良い。ユニットの至るところにソファが置かれてあり、利用者はゆっくり思い思いの場所で休むことができる。職員が隅々まで丁寧に掃除をし、できる利用者と一緒にしている。空気清浄機も各ユニットに設置されている。中庭には、トマトやキュウリの野菜、季節の花を栽培するスペースもあり、利用者は季節を感じることができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除や換気を行っている	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感にあわせた行事に参加している。また、中庭には季節の花や野菜を植えている	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方同士で自由に過ごされている	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	直接見えないような作りになっている。また、中庭や2階からも見えないように目隠しをしている	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたものを持ってきている。	○	/	/	居室にはテレビやソファ、位牌、孫の作品(本人の似顔絵)、家族写真、スクラッチアートなどがあり、利用者一人ひとりにとって居心地のよい空間が作られている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	今、出来ることを活かしながら自立した生活が送れるようにしている	/	/	○	トイレの貼紙や居室入口にはプレートの表札を設置しており、職員は丁寧な誘導や声かけにも努め、利用者が安心して生活できるよう取り組んでいる。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱を招くものは置かないようにしている	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	使用したい際に渡している。	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	所在確認を行い、自由に歩けるようにしている	◎	◎	○	事業所の海側の出入口のみ、利用者の安全第一のため施設しているが、複合施設と連結する出入口などは開錠し、ルートを確認している。利用者が外に出たい場合には、職員が付き添って一緒に中庭へ出て、明るい話をして気持ちを安らげるなど、利用者の気持ちを汲み入れながら生活を支援している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	その都度話し合っている	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	施設内の他部署にも協力していただいているが、近隣への理解・周知は行っていない。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントや面談記録に個々の病歴などは明記している。いつでも閲覧できるようにファイリングしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日、バイタル測定を記録し、異常の早期発見につとめている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	日中夜間を問わずいつでも協力医療機関に連絡が取れる体制を作っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入所前からのかかりつけ医に受診されている方もいる	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	訪問診療を定期的に行っている。常に連携を図っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	その都度、連絡・相談・報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	本人の状態を明記したサマリーを渡し情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	定期的に面会に行き病状の把握を行い病院関係者との連携を図っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	訪問診療時や定期的に相談を行い日頃から連携を図っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護師の配置はないが、協力医療機関に何かあれば伝え相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関に24時間連絡が取れる体制を作っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	いつもと様子が違うなどの変化があれば協力医療機関に相談し受診している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個々の薬剤情報をファイリングし理解に努めている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬の管理は職員が行っている。医師の指示通り服薬介助を行い、誤薬のないよう工夫している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態を観察して記録している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化があったときは状態の経過や変化を細かく記録し医師に報告、連絡、相談している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	入所時や重度化した場合、家族と相談している	/	/	/	終末期ケアに関する指針やマニュアルは作成されていないが、入居時にのみ職員は事業所の方針などを家族に説明している。過去に一度、事業所で看取りを行った際には、かかりつけ医と連携し、複合施設の看護師の協力を得ながら支援し、職員は、「利用者や家族の意向に沿うことができよかった」と感じている。また、管理者は、「今後も看取り支援の希望があれば、実施していきたい」という、考えを持っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合、家族と相談し協力医療機関とも相談している	x	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	どこまでの支援ができるか話し合っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に説明している。重度化しているときにもその都度施設で出来ること・出来ないことを説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度化した場合、医師の意見も踏まえた上で家族と相談している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の気持ちをその都度聞いている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	マニュアルを作成。マニュアルや感染症について勉強会を行っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルに沿って対応。勉強会を実施。また、感染症対応のキットに手順を記入している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	その都度最新の情報を取っている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	随時情報収集し対策をとっている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤時に手洗い、嗽を行っている。来訪者にも、手指消毒をしてもらっている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入所者の状況報告だけでなく、日常会話を含めて伝えている	/	/	/	事業所の行事内容は、全ての家族に連絡しているが、今年度はコロナ禍のため、家族参加の夏祭りやそうめん流しなどの行事の規模を縮小して実施している。県外に住む家族もあり、毎月、請求書に合わせて一緒にモニタリングした状況を送付し、利用者の様子を伝えている。電話連絡や写真も送るなどして、伝達することもある。職員の異動等の状況については、入れ替わりが少ないこともあり、これまで特に利用者や家族への影響は見られていないが、今後は伝えていく予定である。現在、コロナ禍のため、職員は家族とのコミュニケーションの機会が減っているが、家族が事業所に意見をより伝えやすくなるような取組みの工夫を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	感染症対応以外のときは、居室で面会時はお茶を出したりしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の案内を行い参加していただけるようにしている	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月の暮らしぶりや日常の様子などを記入し近況報告として送付している	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	×	本人の状況は報告しているが、家族の知りたいことは把握できていない	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	面会時は声をかけ、状況や状態を伝えている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の報告は行っているが、職員の異動までは報告できていない	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会を行っているが、参加者が少ない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時に説明している。また、落ち着かないときや退院後などもリスクを伝えている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	面会時には日々の様子を報告している	/	/	△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に契約書・重要事項説明書を説明し同意を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	状態が変化した時には家族、主治医と相談し退居先に移れるように支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時などの変更時は文章を送付し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議や行事で施設への理解を図っている	/	◎	/	現在は、コロナ禍により屋外の散歩や地域との交流機会が減少している。町内会への加入をしたため、管理者は今回回覧板などを活用し、地域に対して事業所行事の案内や報告、周知活動をしていく方針である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	外に散歩へ行った際、挨拶は行っている	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	ほとんどない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	行事には来てくださっている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	隣近所がなく、日常的な付き合いはない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夏祭りや敬老会など参加し支援して頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	夏祭りではGHの入所者が出し物を出している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣の高齢者福祉施設と災害時相互応援協定を締結している。消火、避難訓練等を通じて消防署との関係を深めている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族や民生委員、町の職員に参加して頂いている	×	/	△	現在は案内は行っていないが、今後は全ての家族に運営推進会議の開催案内を行う予定である。会議では利用者の様子や行事などの報告事項は、十分に行っている。これまで運営推進会議を重ねてきたことで、町内の他の2か所のグループホームとの横のつながりもでき、開催した成果が見られている。また、会議には地域住民の参加もあり、会議の目的や意義についても理解を得ており、参加者からの意見や提案を受けて利用者のプラスになるよう取り組むことができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で意見を職員で話し合っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマにあわせて日程、時間調整をしている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	施設玄関に置き、自由に閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	法人の理念に沿って支援している				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に掲示している	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修に参加している				法人全体で、年1回職員のストレスチェックを実施している。複合施設全体を管理する施設長は事業所にも顔を出しており、職員にとって話しやすく、現場の声にも耳を傾けてくれる。また、施設長は事業所の運営推進会議にも出席しており、行事にも協力してくれている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体での勉強会計画に沿って勉強会を行いスキルアップできるように努めている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の努力や実績等を把握している				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内事業所の運営推進会議に参加し情報交換やネットワーク作りを努めている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックを年に1回実施している。職員同士相談しやすい環境作りに努めている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	マニュアルを作成している。マニュアルにそって勉強会を行っている。				年2回、職員研修を実施している。不適切なケアについては、3か月に1回、チェック表をもとに全ての職員が自己点検を行い、管理者が確認している。また、ユニット内には事業所の高齢者虐待防止指針を掲示している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	不適切ケアチェックを3か月毎に実施し自身のケアを振り返っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	見過ごすことのないよう努めている。また、発見した場合の対応方法などはマニュアルに記載している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労がでないように勤務を組んだり、ストレスによりケアに影響が出ていないか注意を払っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	マニュアルを作成している。マニュアルを元に勉強している。常に職員間で話し合い、行動を制限しないケアが実施できるよう工夫している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	常に職員間で話し合いを行い勉強会を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在そのような事例はない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	勉強会はしたが、それぞれの違いや利点まで全員は理解できてない	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在そのような相談はないが、相談があれば支援していく	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連絡体制はあれが、現在必要な方はいない	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	実践的な研修は行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットの報告書を行い事故につながることに検討している。事故発生時は分析や再発防止策を検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生後、対応策を検討・実施し見直しを行っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	施設内のマニュアルを作成している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は手順にそって対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	寄せられた苦情には速やかに対応し納得が得られるようにしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設けている。	/	/	○	利用者一人ひとりの生活場面から、職員は利用者本人の要望などを汲み取っている。苦情相談窓口をユニット内に掲示しているが、直接相談に来る利用者はいない。家族会はあるが参加者が限られており、家族の面会や電話連絡時に意見、要望などを把握している。運営推進会議の参加者からも意見を聞くことができる。職員は、管理者と話しやすいと感じており、利用者の支援に関する内容などを含めて、個別に相談できる機会がある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時など個別に話を聞いている。意見箱を設置しているが意見はほとんどない。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	苦情相談窓口を設け施設内に掲示している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	個別に話を聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個別に悩みや相談を受けるようにしている。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に一度自己評価を行っている。				運営推進会議において、外部評価の結果や今後の取組みなどについて報告をしている。今後は、事業所のモニターの仕組みがさらに機能していく取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員同士で話し合いを行っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標が達成できるよう取組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて評価結果や今後の取組みについて報告している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	行っていないため今後は行いたい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害ごとのマニュアルを作成している。				複合施設全体で、日中と夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。現在は、地区の合同訓練への参加ができておらず、事業所内の訓練に家族や地域住民の参加も得られていない状況である。今後は、家族や地域住民に事業所の取組みを伝え、複合施設に併設した原子力災害等の避難施設である屋内退避棟の案内などを行う計画としている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練計画にそって訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	地区の合同訓練に参加していたが、施設内の屋内退避棟に避難するようになっている。	△	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	消防署立会いのもと、訓練や指導、助言をいただいている。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない。初任者研修の講師依頼があったが、初任者研修が未開催になった。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていないため今後は行いたい。		×	×	地域住民などに対する相談支援を行うことができていないため、今後は回覧板を活用するなど、事業所の取組みを地域に周知していくことを期待したい。近所にあった保育所は閉園したが、町内の中学生や高校生によるボランティア活動を受け入れている。また、複合施設・事業所として、日頃から町担当課や地域包括支援センターの担当者と勉強会などを通じてコミュニケーションが図られ、相談できる関係を築いている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	集う場所を提供しますと声をかけたが、地域と離れていることもあり活用はされていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験の受け入れをおこなった。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センター主催の勉強会などに参加している。連携は図れている。			○	